

令和2年ホヤ類調査結果速報 No. 3

令和2年10月8日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

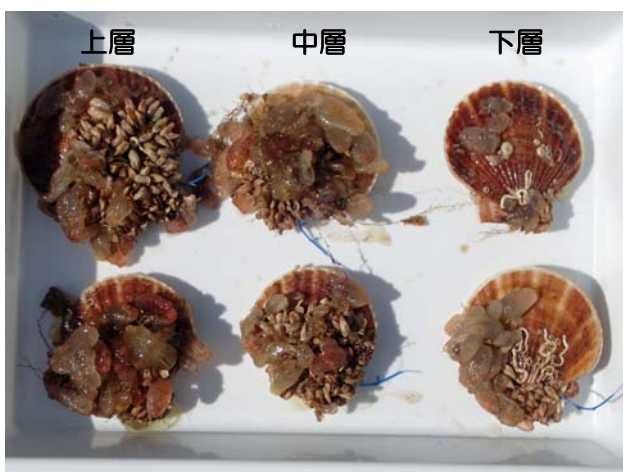
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

9月29日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は減少しました（図1、図3上）。付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり42.5個体で（表1）、過去5ヶ年の平均とほぼ同じです（図3上）。
- 5mm未満の微小な個体の占める割合は低くなり、耳吊りホタテガイに新たに付着する個体は少なくなっていると考えられます（図2）。
- 平均サイズはやや小さく、付着重量も過去5ヶ年の平均より低い値となっています（図3下）。成熟の目安となる25mm以上の個体の割合は約1割でした。
- 「個体数が減少に転じ、新たに付着する個体が少なくなっていること」および「今後、耳吊りホタテガイ上で新たな繁殖個体の増加が懸念されること」から、状況に応じて、貝洗い等の対応を進めて下さい。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和2年9月29日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和2年度ザラボヤ被害防止ネットワーク構築委託事業で実施しています。

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

【調査月日：9月29日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚】

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました（図1、表1）。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり42.5個体、平均サイズは14.8mmでした。前回の調査（92.7個体）から、個体数は大きく減少しました（図3上）。平均サイズは過去5ヶ年の平均（16.5mm）を下回っています。成熟の目安となる25mm以上の個体の割合は約1割で、今後成熟個体の割合が高くなると考えられます（図2）。また、10月以降、付着個体の成長に伴い、付着重量は急激に増加すると見込まれます（図3下）。出荷時期（12～4月）にホタテガイ1枚あたりヨーロッパザラボヤが10個体残っているだけでも、ホタテガイを上回る重量となり、成長にも悪影響が出ます。各地区の状況に応じて、貝洗い等の対応を進めてください。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：令和2年9月29日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	66.1g	58.2g	26.4g	50.2g
ヨーロッパザラボヤ	22.6g	26.6g	11.1g	20.1g
その他	43.4g	31.6g	15.3g	30.1g
ヨーロッパザラボヤ個体数	38.2個体	56.6個体	32.8個体	42.5個体
令和元年9月（R1.9.18）の個体数	25.8個体	53.4個体	50.8個体	43.3個体
平成30年9月（H30.9.20）の個体数	28.0個体	21.4個体	46.4個体	31.9個体
平成29年9月（H29.9.22）の個体数	5.6個体	36.0個体	88.0個体	43.2個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：令和2年6～9月）

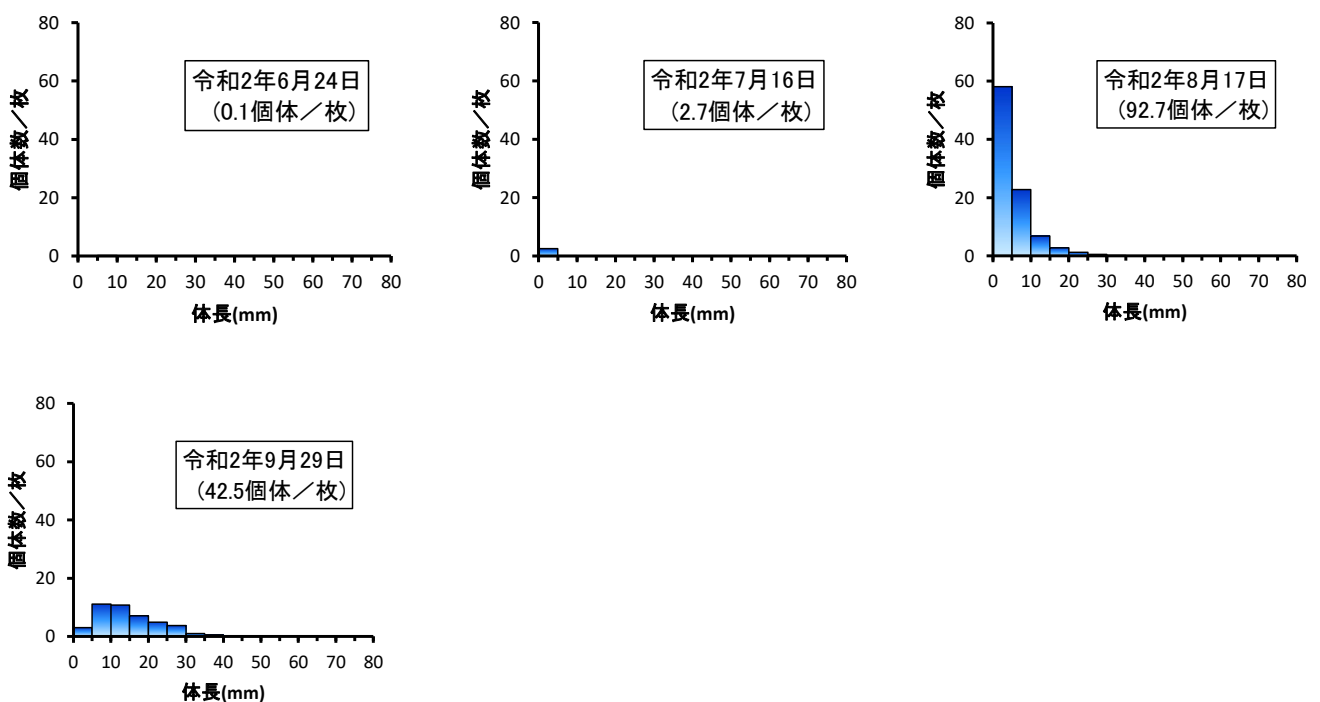
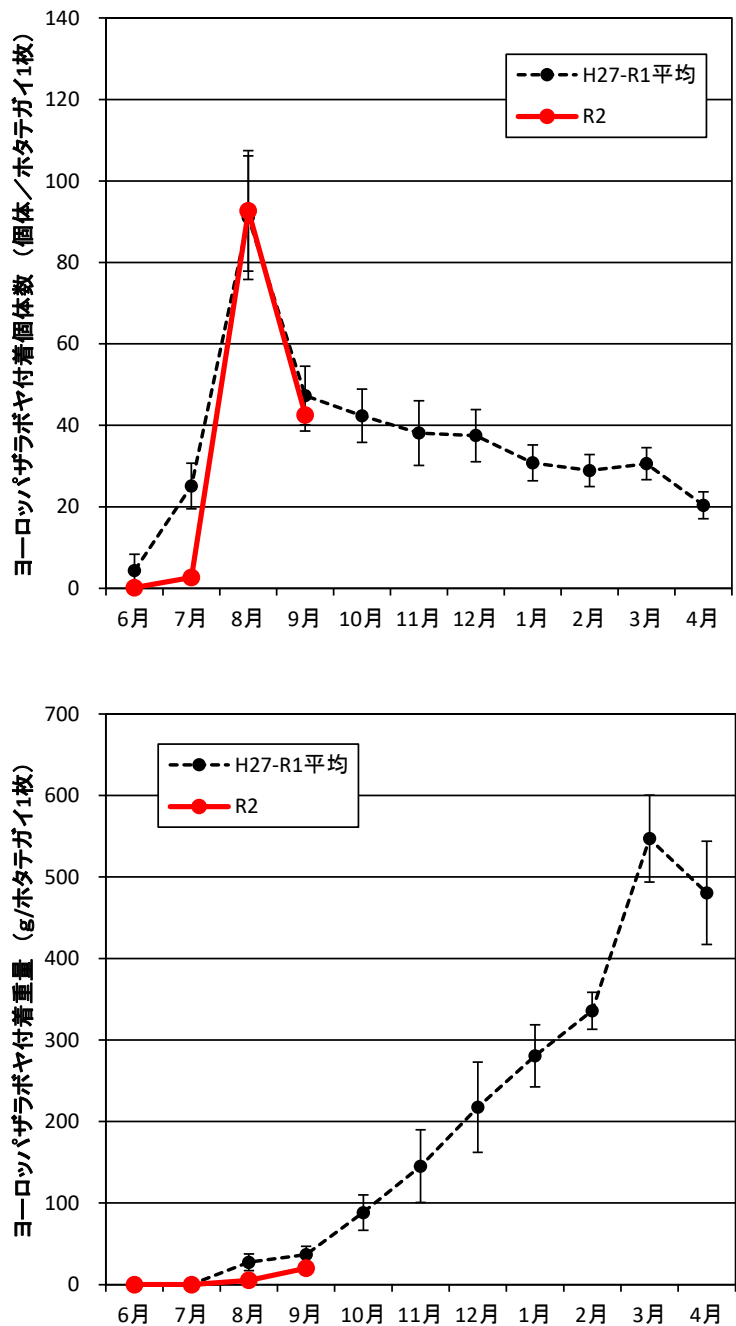


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去5ヶ年（H27～R1年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が中心となっています。付着重量は10月以降、急激に増加します。過去のデータから今後は、個体数が緩やかに減少しながら、重量が大きく増加していくと予測されます。